令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

未来の社会をリードする人材を育成することで地域の誇りとなる学校をめざす

- 1 自立心と進取の気概を育成する
- 2 フェアなルール感覚を育成する
- 3 多文化共生・国際教育を推進する
- 4 科学的・論理的に考え行動する人材を育成する

2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成
- (1) 自分の考えをまとめたり、発表したりする機会の多い授業づくりを推進する。
 - ア 説明・発表・討論等を通じて、「思考力・判断力・表現力等」を育成するような「言語活動の展開」をめざす。
 - イグループ活動、ペアワークなどを取り入れ、学習意欲を高めることに尽力する。
 - ウ 令和2年度入試から始まる新しい時代に備え、積極的に研修に努め、新たな指導法と評価法を完成させる。
- (2)「総合的な学習の時間」に展開している「課題研究」を充実させ、「総合的な探究の時間」の目標達成をめざす。
- (3) これまでの教育活動の実績に基づき、実践的な英語教育と多文化共生・国際教育を一層推進する。
 - ア GTEC を全員受験(1・2年)とし、英検等の受験を勧め、4技能バランスのよい英語力の育成をめざす。
 - イ 全員参加の海外修学旅行の継続、英語圏およびアジア圏への研修の充実、海外からの訪問者の受入れを従来通り積極的に行う。
- (4) この数年間に整備した ICT や教育産業のコンテンツを活用するより質の高い授業と講習を実施する。
- (5)希望進路達成率(第2希望も含めて)85%以上をめざす(H29:73%、H30:67%、R1:74.3%)。
- (6) 令和2年度入試から実施される、「大学入学共通テスト」を見据え、新大学入試制度に関する情報収集と研究を行い、日々の授業に反映させる。
 - ア 「主体的・対話的で深い学び」をめざし、基礎的・基本的知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育みをめざす。
 - イ 中教審答申には、「パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」が例示され、達成度の基準を示す「ルーブリック」が紹介されている。ペーパー ーテストによらないこのような新しい評価を徐々に生徒に示していく。
- 2 日常の中で自律し、社会の中で自立できる人材の育成
- (1) クラブ活動加入率の増加をめざし、各クラブが成果を出せるよう努力する。積極的にクラブ支援を行う。 ※部活動加入率 80%をめざす。

(H29: 73.4%, H30: 75.4%, R1: 77.7%)

- (2) ユネスコスクールとして国際交流、地域交流そして社会貢献を推進する。「人権」、「国際理解(国際協力)」、「ESD(持続可能な開発のための教育)」等による「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けた取組みなどを通じ、グローバルな視野をもった人材を育成する。
- (3) 生徒会活動の活発化を図り、全生徒の自律心と自立心を高める。
- (4) キャリア・パスポートを活用しながら、生徒一人ひとりが自らの学びや生活を見通し、振り返ることができるようにする。
- 3 生徒の希望をかなえる学校づくり
- (1)日々の学校生活が楽しく充実したものであり、キャリア教育によって将来が展望できる、満足度の高い学校生活を送れるようにする。
- (2) 遅刻・服装指導等の継続、清潔できれいな学校作り、メディアリテラシー教育を進める。自宅学習時間の確保を考える。
- (3)情報発信を重要視する。
- (4) 生徒が自主的に行動できるノークラブデーを有効活用するとともに、教職員の働き方改革も推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]

- 学校運営協議会からの意見
- ○授業において「考えをまとめたり発表する機会がある」という項目についての肯定的評価が目標値を上回っており、授業の工夫が生徒に届いていると言える。今後さらに工夫を重ねてまいりたい。
- 〇「『総合的な探究の時間』は役に立つと思う」の項目の肯定的評価が70% を超え、目標値を上回った。現在、新しいカリキュラムを検討中である が、より深化・充実したものとしていきたい。
- △国際教育等への肯定的評価が、国際教養科では90%を上回ったものの、 普通科では70%台と目標に届かなかった。生徒にとり、より有用感の あるプログラムや取組みをめざしてまいりたい。
- △生徒会活動については目標値に届いていない。コロナ禍の影響で、生徒会が主体となる行事の多くが中止や縮小したことが原因と考えられる。 厳しい条件の中でも生徒たちが活躍できるあり方を模索していきたい。
- △「学校へ行くのが楽しい」という項目では目標値に届いていない。コロナ禍のため、年度当初の臨時休業や学校再開後の行事の中止・縮小などが影響しているものと考えられる。学校生活に対して、生徒の動機づけを高める方策を考えてまいりたい。
- ◇経年で見ると、「確かな学力の育成」に関わる項目の肯定的評価は概ね 上昇傾向となっている。より充実をめざした取組みを進めていきたい。
- ◇「学校へ行くのが楽しい」や「学校行事の工夫」などについての項目の 肯定的評価が昨年度に比較し下降している。厳しい状況の中で生徒の動 機づけにつながる方策を考えていく。

- 第1回(書面による開催: 8/4までに意見聴取)
 ◇「海外修学旅行や英語圏・アジア圏への研修の充実など」について、現在の新型コロナウイルス感染症拡大の状況の中、今年度のみ変更してもよいのではないか。
- ◇学校現場と家庭状況の把握、②その対応と対策や取組み、③生徒の変化にカウンセリン グなどの対応を今後に生かしてほしい。
- ◇改訂された「進路指導の手引き」ではより具体的な目標をもって日々を送り、3年間の 成長を自分でデザインしやすい内容になっていた。
- ◇いち早く入学式や海外研修を中止し安心安全に対応した取組みは非常に評価される。
- ◇教育クラウドサービスや YouTube チャンネルの開設、ICT 教育推進・企画室を設立したことは、時代の変化に素早く対応した柔軟で迅速な学校経営である。

第2回(書面による開催:12/28までに意見聴取)

- ◇感染拡大防止のため「瞬間体温計」「サーモグラフィー」をいち早く導入され、安心安全 のため行事に活用されている。
- ◇国際交流では「オンライン交流」で新しい時代を切り拓いている。
- ◇「広報プロジェクトチーム」を設立。パンフ、ビデオ、HR 等を活用して学校紹介を継続されたことが素晴らしい。
- ◇広報面で、国際文化科への再編についてより具体的な内容の発信が必要。より具体的な カリキュラム内容などを早々に発信をしてはどうか。

第3回(令和3年2月20日開催)

- ◇オンライン国際交流や課題の幅の広い SDGs をとりあげることで可能性が広がる。学校の強みとしていけるのではないか。
- ◇保護者が不安にならないような情報発信を。些細な毎日の日常でも HP などから発信することで反響がある。工事の完成や国際交流などよいことの発信を。
- ◇遅刻数が減少していることはよいこと。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的)取組内容及び自己評今年度の重点目標	<u>ー</u> 具体的な取組計画・内容	評価指標	 自己評価
目標				(1)
	(1)授業改革 「主体的•対話	(1) ア 説明・発表・討論等を盛り込んだ授業を行う	(1) ※()内はR元年度 ア 全教科で1回以上校内公開授業を行う。	(1) ア 14回の公開授業を実施(△)
	的で深い学び」の	イグループ活動、ペアワークなどを取り入れ、学	イ 学校教育自己診断「考えをまとめたり発	イ 普通: 79.5%、国際: 87.4%
	実現をめざし、自	習意欲を高める。	表する機会がある」75%以上(74.5%)	(⊚)
	分の考えをまとめ たり、発表したり	ウ 新学習指導要領の実施と新しい入試を見据えた カリキュラムの作成	ウ カリキュラム検討委員会を設置し新カリ キュラムの完成をめざす	ウ 新カリキュラムはほぼ完成(〇)
	する機会の多い授	エ 授業において生徒の思考力や表現力を促すさま	エ 授業アンケート「6 授業では自ら考え	エ 「授業では自ら考え表現する活動
	業づくりを推進す る。	ざまな工夫を行う。	表現(記述、発表、作品、パフォーマンス など)する活動が多く取り入れられてい る」の肯定的評価 80%以上を維持。	が多く取り入れられている」の肯定 的評価 84.7%(O)
	(2)課題研究	(2)	(2)	(2)
1 確かな学力の育成 社会の中で自律し		ア 「総合的な探究の時間」のシラバスを再構築する。「学校経営推進費」を活用して課題研究に即 した教育環境整備を行う。	ア 再構築したシラバスを文書化する。	ア 「探究」の3年間の計画原案を完成したがシラバスまで至らず(△)
		イ 「総合的な探究の時間」の目標を見据えて「課題研究」に取り組む。	イ 学校教育自己診断「『総合的な探究の時間』は役に立つと思う」70%以上 (新規)。	イ 普通:77.3%、国際:72.4% (◎)
	(3) 英語教育と多文	(3)	(3)	(3)
	化共生·国際教育	ア GTECの全員受験(1・2年)を推進する。 イ 英検等の受験を奨励する。	ア CEFR B1以上20%、A2 80% イ 英語科でGTEC や英検などの受験の分 析ペーパーを作成し共有する。	ア B1以上4.2%、A2 72.3%(△) イ GTEC 分析ペーパーを共有する ことができた(○)
		ウ 海外修学旅行、英語圏への生徒派遣・アジア圏	ウ 学校教育自己診断「異なる文化や考え方	ウ 普通:76.6%、国際:95.9%
		との交流、海外からの訪問受入れ事業を実施。	を大切にする」70%以上(新規)。	(@)
	(4)ICT 等の活用	(4)	(4)	(4)
		ア ICT や教育産業のコンテンツを活用したより質の高い授業と講習を実施する。	ア 効果的な ICT の活用等の実践を収集し、 校内において共有する。	ア 教育クラウドサービスを活用し た取組みを推進(O)
		イ 課題研究で生徒にICT機器を活用させる。	イ 生徒全員が課題研究でICTを活用する。	イ 課題研究で活用(◎)
	(5)希望進路達成率	(5) 希望進路達成率 (第2希望含む) を向上させる。 (6)	(5)希望進路達成率(第2希望含む) 70%以上を維持。(74.3%)	(5)希望進路達成率 80.8% (◎)
	(6)新学習指導要領	ア 思考力を問う新しい大学入試を研究する。	(6)	(6)
	等に対応した授業 や評価の実施	イ ペーパーテスト以外の評価を導入する。	ア、イ 各教科において、新しい大学入試や評価方法を研究し、それを共有化する。	ア、イ リサーチした内容を3年生中 心に授業や説明会で提示(O)
	(1) クラブ活動加入 率の増加	(1) クラブ活動加入率増加をめざし、各クラブが成果を出せるよう活性化委員会や後援会が支援。年度途中でも入部しやすい環境づくりに取り組む。	(1)クラブ加入率 78%(77.7%)	(1) クラブ加入率 73.4% (○) コロナ禍の中で各部健闘した。
	(2) ユネスコスクー	(2)	(2)	(2)
	ルの活動	ア ユネスコスクールとして、国内外に情報発信を行い、その取組みを校内の共有財産とする。	ア 学校教育自己診断で国際教育等への肯定 感80%以上維持(88.4%)。	ア 普通:76.6%、国際:95.9%
要じ		イ 泉佐野市が主催する様々な地域イベントにユネ	イ 全国規模、地域規模の発表会やコンテス	1 ONE WORLD FESTIVAL for
Š		スコスクールとして関わる。	トに1回以上参加。	Youth にオンライン参加(◎)
훈	(3)生徒会活動の活	(3)	(3)	(3)
さる	発化	ア 限られた条件を最大限に生かして生徒会活動を	ア、イ 学校教育自己診断「生徒会活動が活	ア、イ 普通:71.2%、国際:66.6%
社会の中で自立できる人材の育成士で自律し、		活発化させる。 イ 近隣支援学校や地域等との交流などに取り組め るようにする。	発である」85%(85.7%)	(\triangle)
	(4)キャリア・パス ポートの活用	(4) キャリア・パスポートを導入する。	(4) キャリア・パスポートの様式を構築、導 入してキャリア教育を充実する。	(4) キャリア・パスポート様式と運用 について体制を構築中(△)
3 生徒の希望をかなえる学校づくり	(1)満足度の高い学 校生活	(1)従来からの学校生活に対しての高い満足度をよ り向上させる。	(1)学校教育自己診断「学校へ行くのが楽し い」85%をめざす。(82.2%)	(1)普通:82.3%、国際:77.9% (△)
	(2) 遅刻・服装指導	(2)	(2)	(2)
	等の継続、清潔で きれいな学校作	ア 遅刻指導を継続し、さらに時間を守る意識を 高め、生徒の生活習慣を向上させる。	ア 年間総遅刻数2,000 件以内を維持する。(1,875 件)	
	り、メディアリテ ラシー教育推進 、	イ 1年生徒が出身中学校訪問を含め、中学生から「あこがれられる」高校生としてのあり方を	イ 1年生が出身中学校訪問を行う。	イ 感染症予防のため実施せず。(一)
	自宅学習時間の確	追求する。(ボランティアや出前授業など)	ウ 各学期の終業式にSNS 活用に関する生	ウ 講話は実施。コロナ禍のため外部
	保	ウ メディアリテラシー教育(SNS に関する指 道)を計画的に行う	徒指導課からの講話を行うとともに、外部 業師による謙譲を実施する	講師は招聘できなかったが、府作成
かだ		導)を計画的に行う。	講師による講演を実施する。	リーフレットを活用して SNS に関する指導の充実を図った。 (〇)
マネ	(3)情報発信を重要	(3)	(3)学校説明会や体験授業の参加者数の目標	(3)感染症予防のため多くの説明会を
学	視	ア 全員で広報する体制をさらに強化する。	をのべ1,500人以上とする。	中止とした。11 月に参加者限定で
校づくり		イ 広報スタイルをさらにブラッシュアップし、 広報媒体(チラシ・リーフレット、WEB)に	(校内1,128人 校外431人)	2回開催。その他外部機関主催の説明会に参加。総参加者数 668 人。
		継続的に工夫を加える。		ア、イ 広報 PT を中心にリーフレッ
		ウ 文書配布、ホームページ、メールの活用促進	(4)校内で啓発を行うとともに教育産業など	ト等を一新して広報に活用。(◎)
	(4) ノークラブデー 活用と働き方改革	(4) ノークラブデーと働き方改革の理解を深め、実 践につなぐ。	外部機関と連携し、職員の負担を軽減。 月間超過勤務時間 80 時間以上人数(の べ)を 30 人以下にする(のべ 34 人)	(4) 月間超過勤務時間 80 時間以上の 人数(のべ) 29 人。 (〇)